

# **第 9 次森町総合計画**

## **（基本構想検討案）**



## <目 次>

### 第1編 序論

#### 第1章 計画策定にあたって

- 1 計画策定の背景・目的 ..... 2
- 2 計画の構成と期間 ..... 3
- 3 人口・世帯の現状と将来見通し ..... 4

#### 第2章 計画策定の背景

- 1 時代潮流 ..... 7
- 2 森町の特徴と課題 ..... 8
- 3 町民意向 ..... 11

#### 第3章 まちづくりの課題（分野別） ..... 13

### 第2編 基本構想

#### 第1章 まちの将来像 ..... 16

#### 第2章 まちづくりの基本目標 ..... 17



# 第1編 序論

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の背景・目的

森町では、平成 18 年度を初年度とし平成 27 年度を目標年次とする「第 8 次森町総合計画」において、「ええら森町！」～みんながチカラの郷づくり 古きをいかして新しきをつくる～ を将来像に掲げ、その実現に向けてまちづくりを進めてきました。

我が国の社会経済状況は、少子高齢化や人口減少の急速な進行による人口構成の変化、自然災害をはじめとする様々なリスクに対する危機管理意識やエネルギー・環境問題に関する意識の高まりなど、大きく変化しています。また、「地方創生」や、参画と協働によるまちづくりの更なる推進が求められるなど、地方自治体を取りまく状況も変化してきました。

時代の変化に柔軟に対応し、本町が目指す姿と進むべき道筋を明らかにするための町政の中長期的な指針となる「第 9 次森町総合計画」を策定します。

策定に際しては、以下の 6 つの視点で策定しました。

- ① 町民と行政との協働作業での策定
- ② 全職員の参加を基本とした策定
- ③ まちづくりの基軸となる戦略的な計画
- ④ 地方創生の実現に向けた計画
- ⑤ 簡潔で読みやすい形態
- ⑥ 各種計画との整合性

## 2 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」及び「基本計画」により構成し、計画期間を平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間とします。

### (1) 基本構想

当町がめざす将来の都市像など、まちづくりのビジョンを明確にし、政策の基本目標(政策テーマ)を定め、その実現に向けた指針を示します。計画期間は平成 28(2016)年度から平成 37(2025)年度の 10 年間とします。

### (2) 基本計画

基本構想に定めた将来像の実現、基本構想に基づく施策を戦略的に推進するため、主要な施策・事業を体系的に掲げます。計画期間は基本構想と同様とします。



## 第2章 計画策定の背景

### 1 時代潮流

近年、当町を取り巻く社会経済環境はさまざまな面で大きく変化しています。本計画策定において留意すべき、時代の潮流と課題を整理します。

①少子高齢化・人口減少社会の進行	・人口減少・少子高齢化が進み、労働力の減少や地域活力の低下、年金や医療費などの社会保障費の増加など社会のさまざまな面での影響が懸念されます。
②地方分権と行政改革の推進	・地方自治体は財政的に依然厳しい状況にあります。地方創生といった、地域のより主体的な取り組みが求められています。
③価値観の多様化	・家族や結婚、就労に関する価値観が多様化し、ワークシェアリング、在宅開業など生活様式や就労形態も多様化しています。 ・家族との交流や自然とのふれあい、健康志向の高まりなど「こころの豊かさ」を重視する人が増えています。
④環境問題の進行	・地球温暖化の影響は年々顕在化し、地球環境への負荷低減が世界共通の課題となっています。 ・国のエネルギーシステムが抱える脆弱性が顕在化しています。
⑤安全・安心意識の高まり	・近年の巨大地震の発生、突発的豪雨の多発などの自然災害や、高齢者や子どもなどの弱者を標的にした犯罪の多発などへの危機意識が高まっています。
⑥地域経済をとりまく環境の変化	・経済のグローバル化が進み経済活動の機会が拡大する一方、経済活動における国際間・地域間の競争は一層激しさを増しています。 ・外国人の雇用や非正規雇用の増加など雇用形態が多様化し、賃金格差なども社会問題化しています。
⑦教育や子育てに対する関心の高まり	・子どもの学力の低下や生活習慣の乱れなどが社会問題化し、いじめや不登校などの問題の対応も急務です。
⑧住民参画・協働意識の高まり	・ボランティア意識の高まりや住民活動の活発化とともに、住民がサービスの一方的な受け手ではなく、住民と行政が一体となって自立した地域社会を形成していくことが求められています。
⑨情報化のさらなる進展	・スマートフォンの急速な普及やWiFiなどの通信環境の整備などによる、情報通信環境の急速な発展とともに、身近な地域社会においても、公共料金等のコンビニ支払いやオンラインショッピングなど浸透してきました。
⑩社会資本の老朽化	・わが国全体で高度成長期に整備された道路、河川、下水道、港湾等の社会資本における老朽化が同時に進んでいます。



## 2 森町の特徴と課題

森町の現状等をふまえ、町の特徴や課題点を整理すると以下のとおりとなります。

### (1) 森町の特徴（強み）

#### ○ 「遠州の小京都」といわれる景観、歴史・文化資源、多彩で高品質な農作物

- ・森町には「遠州の小京都」といわれる風情あふれる街並み、奈良時代から現存する小國神社に代表される史跡、神社等、また四季折々の花と緑の彩りなど特徴ある景観、歴史・文化資源があり、年間 127 万人（H26 年度）に及ぶ観光交流客があります。
- ・また、日用食器、茶器、酒器などの森山焼の産地であり、茶・米・とうもろこし・レタス・柿・メロン等、多彩で高品質な農作物があります。



#### ○ 新東名高速道路の森掛川インターチェンジ・遠州森町スマートインターチェンジ設置による産業拠点形成および交流人口拡大の要素

- ・広域幹線道路としては、町域の南部を東西方向に新東名高速道路が通り、町内に森掛川インターチェンジ及び遠州森町スマートインターチェンジが設置されています。また、静岡県下での内陸のフロンティアを拓く取組（ふじのくに防災減災・地域成長モデル）に基づき、新東名高速道路の森掛川 I C、遠州森町 P A、中川下工専周辺地区において、I C 設置や周辺道路の整備充実による広域的な交通アクセスの向上と、産業活動に資する土地利用を促進するとされています。
- ・鉄道については、天竜浜名湖鉄道の遠州森駅、戸綿駅をはじめ、町内に 5 つの駅が設置され、遠州森駅から J R 掛川駅まで約 25 分で結ばれています。

#### ■ 広域交通条件



#### ■ 内陸のフロンティアを拓く取組（ふじのくに防災減災・地域成長モデル事業対象区域）



## ○ 高いお達者度（静岡県内市町の中で上位、元気な高齢者が多い）

- ・静岡県では年に一度、65歳から、元気で自立して暮らせる期間を算出（※）した「お達者度」というものを県内各市町別にまとめており、森町は男女とも2位にあり、県内では特に、高齢者が元気に暮らせる町であることが伺えます。

### ■「お達者度」（平成28年度発表：上位3市町抽出）

男性			女性		
順位	都市名	お達者度	順位	都市名	お達者度
1	川根本町	18.73	1	吉田町	21.93
2	森町	18.33	2	森町	21.88
3	藤枝市	18.32	3	川根本町	21.84

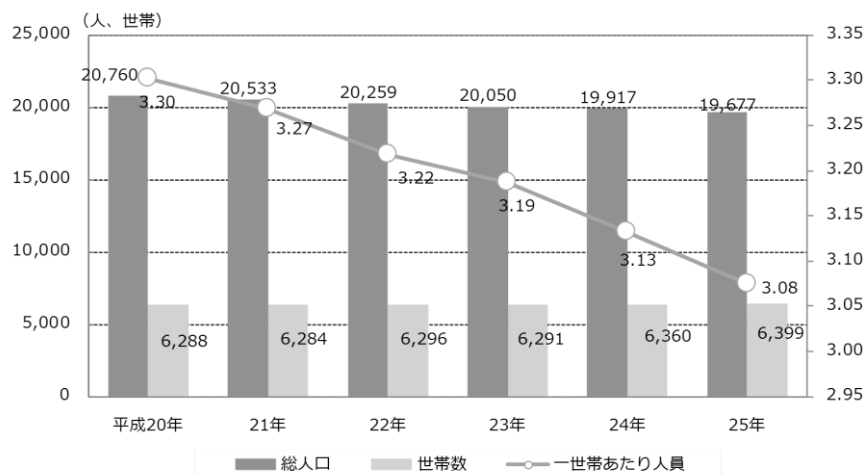
※静岡県内市町の介護認定の情報等をもとに、静岡県独自で算出

## （2）森町の課題（弱み）

### ○ 若年世代を中心とした人口減少、高齢化の一層の進行

- ・本町の人口数は19,677人、世帯数は6,399世帯、世帯あたり人員数は3.08人/世帯となっています。この5年間程度の推移については、人口及び世帯あたり人員数の減少がみられます。

#### ■人口・世帯数の推移



資料：各年住民基本台帳（外国人含）

- ・「15歳未満人口」と「65歳以上人口」の総人口に対する比率をみると、全国・静岡県平均と比べて、少子高齢化が進行しています。県内町部の中ではおおよそ中位置にあります。

#### ■年齢3区分別人口の比較

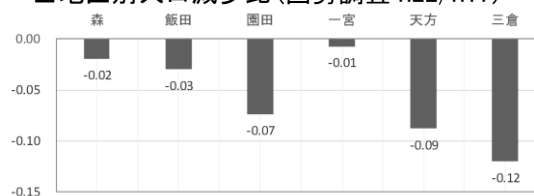
	15歳未満人口			15～64歳人口			65歳以上人口		
	実数	対総人口比	県内12町中順位	実数	対総人口比	県内12町中順位	実数	対総人口比	県内12町中順位
全 国	16,803,444	13.12	—	81,031,800	63.28	—	29,245,685	22.84	—
静岡県	511,575	13.59	—	2,339,915	62.15	—	891,807	23.69	—
森 町	2,431	12.51	6	11,613	59.75	6	5,387	27.72	7

資料：統計でみる市区町村のすがた2014（総務省統計局）

## ○ 地域の過疎化、商業力の低下

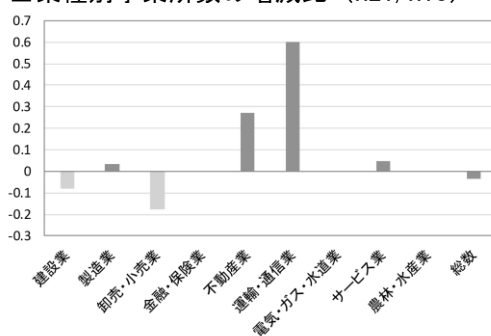
- 町全体の人口が減少傾向にあるなか、地域別にみても、各地区減少となっており、三倉地区、天方地区など町北部の山間地域では減少割合も高くなっています。

■ 地区別人口減少比(国勢調査 H22/H17)

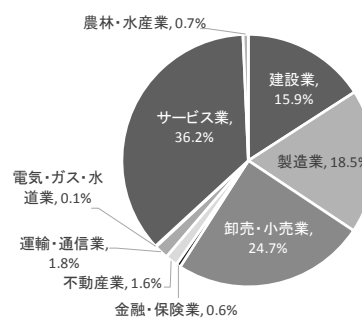


- また、産業の全般的な停滞のなかで、町内の産業業種で多くを占めている、卸売・小売業、建設業の減少（事業所数）が顕著となっています。

■ 業種別事業所数の増減比 (H21/H18)



■ 業種別割合 (H26 事業所数)



資料：平成 18 年事業所統計調査、平成 26 経済センサス基礎調査

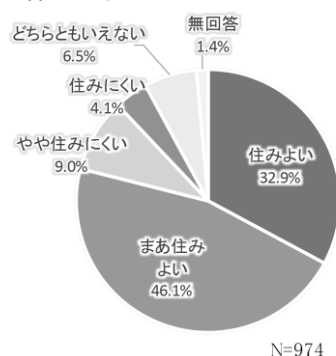
### 3 町民意向

平成 27 年度に実施した、第 9 次総合計画の策定にあたってのアンケート形式の調査（15 歳以上町民 2,000 人無作為抽出）結果から、森町のまちづくりに関する意向を概略整理します。

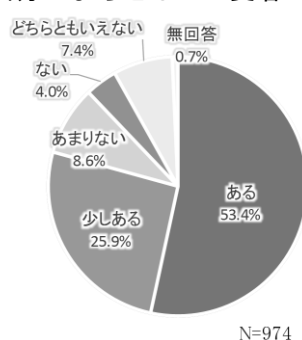
#### ①住みやすさ等の評価

- ・回答者の 8 割近くが、概ね森町は「住みやすい」と評価しており、かつ「自分のまちとしての愛着」も高く、居住継続意向も高い割合となっています。

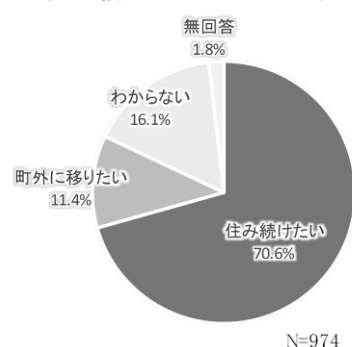
■森町の住み心地



■自分のまちとしての愛着

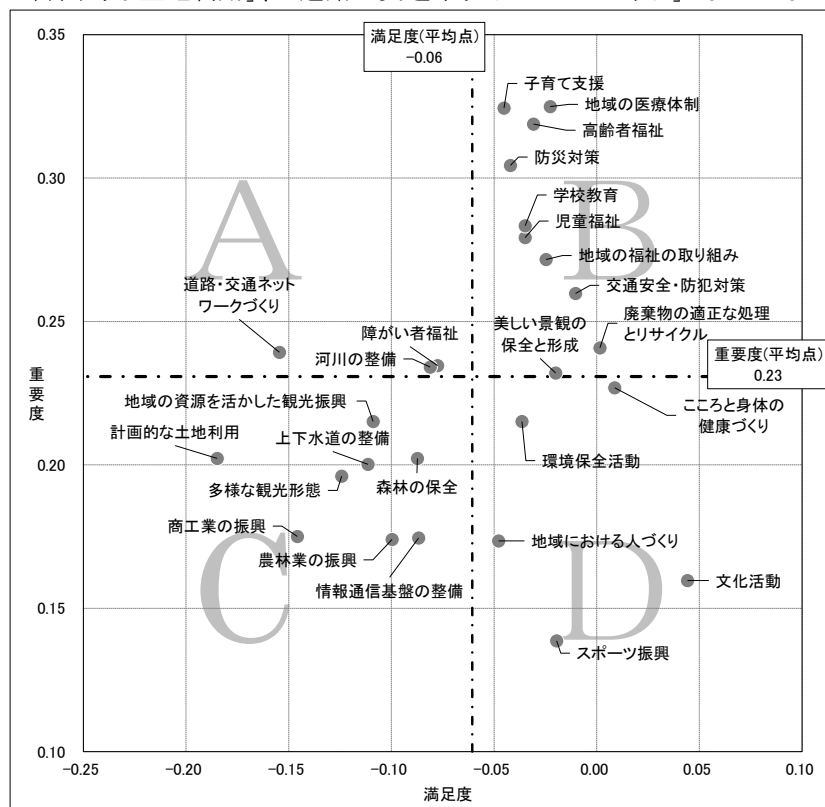


■住み続けたいと思いますか



#### ②まちづくりに対する評価や期待

- ・現行施策の満足度として高いのは「文化活動」、「こころと身体健康づくり」などとなっており、低いのは「計画的な土地利用」、「道路・交通ネットワークづくり」などとなっています。



- A 重点課題：重要性(高)×満足度(低)：他区分の取り組みに優先した重点的な対応が望まれる
- B 継続推進：重要性(高)×満足度(高)：現在の水準を下げないように継続的な対応が望まれる
- C 検討課題：重要性(低)×満足度(低)：必要性の検証や取り組み内容の見直しなどを検討
- D 成果検証：重要性(低)×満足度(高)：必要性を検証し適切な対応が望まれます。

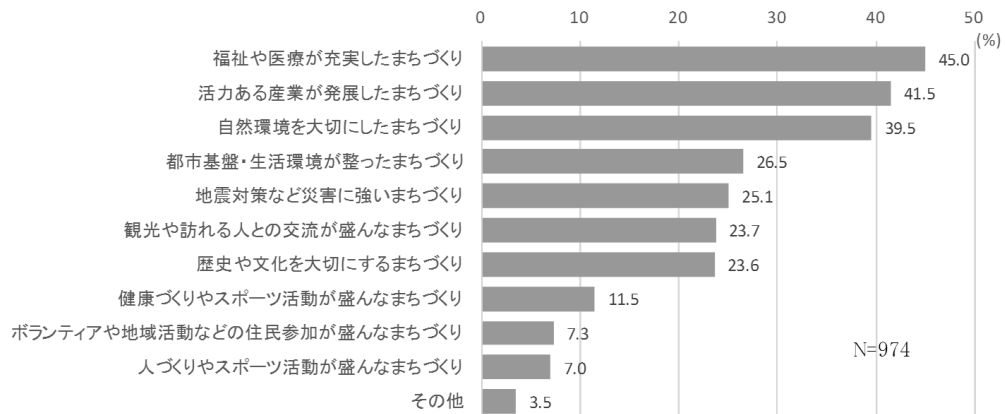
### ③まちの将来イメージについて

- ・これからの森町が目指すと思うまちのイメージや、森町にふさわしいと思う町のキャッチフレーズの町民意向によると、「住みたいまち」、「若者」、「子ども・子育て」、「自然」などが、まちづくりのキーワードとして数多くあげられています。

### ④今後重視すべきまちづくりの分野

- ・今後重視すべきまちづくりの分野としては、「福祉や医療の充実」、「活力ある産業の発展」、「自然環境の保全」となっています。

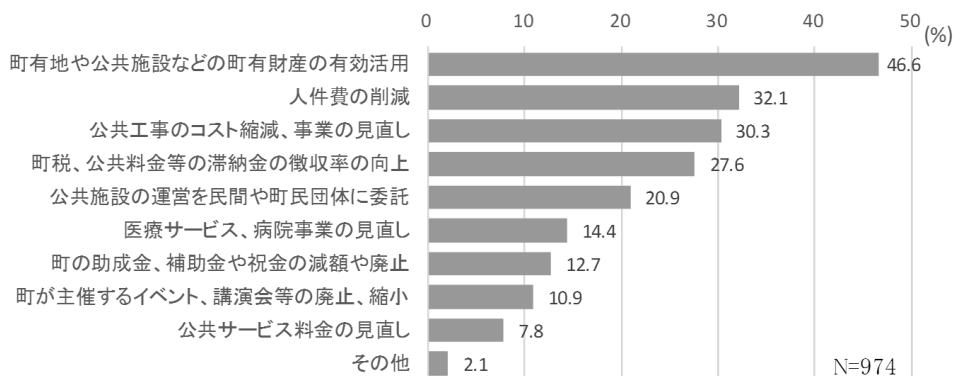
#### ■森町は今後どのようなまちづくりに力を入れていくべきだと思いますか



### ⑤今後の町政の進め方

- ・町財政の健全化に向けて重視すべきことは「町有地や公共施設などの町有財産の有効活用」、「人件費の削減」などとなっています。

#### ■財政を健全化させていくために、今後さらに重点をおくべき項目は何だと思いますか



## 第3章 まちづくりの課題（分野別）

これまで実施してきた、基礎資料の作成や町民意向等の把握結果をふまえ、本計画策定において意識すべき、まちづくり課題のポイントを分野ごとに整理します。

### ◆保健・医療・福祉

- 高齢社会の進行により、福祉需要の増大とそのサービス負担の増加が見込まれることとなり、こうした社会保障費の増加を抑制していく観点で、現高齢世代に限らず、あらゆる世代に対する予防医療や健康づくりの促進が求められます。
- 特に、町の北部中山間地域での人口減少が進み、地域福祉等を展開していくうえでの担い手が十分に確保できなくなることが想定され、また、単身高齢者の増加や老老介護問題への対応も求められます。

### ◆教育・文化

- 少子化により就学児童数が減少しており、少子化が進む地域、一定程度維持できる地域などのそれぞれの実情に応じた適正な配置・規模の学校運営が求められます。また、社会的要請に対応した教育のあり方とともに、地域での学校の位置づけ・役割、地域との関わり方等の検討も必要です。
- 今後も健康づくりや生涯を通じた学習に対するニーズが高まっていくことが考えられ、また、住民に対する地域の歴史・文化への一層の理解を促すことも重要であり、生涯学習・文化・スポーツ等が果たす役割は一層重視されることが見込まれます。

### ◆生活環境

- 人口減少が続いていくとともに、住宅・宅地需要も低下し、また、必要となる公共サービス、生活関連サービス等に関連した施設需要、開発余力の低下も考えられることから、今後の適正な開発とともに、既存市街地における都市施設の適正な維持・管理も求められます。
- 少子高齢化が一層進む中山間地域などでは、行動範囲の狭くなる高齢者が安心して住み慣れた地域に住み続けられる環境づくりや、公共交通機関の安定的な維持も必要となります。

### ◆安全・安心

- 地域の居住人口の減少、高齢化の進行により、地域コミュニティの希薄化や地域の防災活動を担う消防団の機能低下が懸念されます。
- 高齢者のみ世帯の増加も見込まれることから、引き続き災害時要援護者の実態把握等を進めるとともに、地域での活用の方法や仕組みの構築など、事前対策を進める必要があります。

- 高齢者や子供など社会的弱者が狙われる犯罪が後を絶たず、社会問題化していることから、高齢者への犯罪防止のほか、地域全体で子どもを見守る仕組みや体制づくりとともに、その実施に向けた気運の醸成が求められます。

#### ◆産業

- 森町の「特産物」を今後も支えつつ、産業として自立できる農業を確立していけるよう、認定農業者の育成や、企業的な経営展開を成し得る農家の育成といった、新たな農業構造の構築・展開が求められます。
- 工業については、高度技術の導入等に努め、新東名高速道路の開通など、森町が持つ優位性をいかし、一層の企業誘致等を図る必要があります。また、地域と産業の結びつきを深め、地域経済力の向上を図ることが求められます。
- 商店は日常生活を支える生活基盤としての機能も果たしていることから、地元消費者のニーズに合った商業の維持・展開が求められます。
- 余暇活動としての国内外の観光ニーズは、依然高まりを見せており、森町の魅力ある資源を保全・継承しつつ、グリーン・ツーリズムの推進や、多彩な観光資源の有効活用や交流の活発化を図っていく必要があります。

#### ◆自然環境

- 町域のほとんどが山林、田・畑で占められており、こうした豊かな自然的土地利用を活かしていくため、里地里山（山林、農地なども含めて）の維持保全とともに、町外や都市部の人などにその素晴らしさを体験できる「活用」の視点との両立が求められます。
- 河川の適切な整備及び水源としての水質の保全、適正な流量の確保等により、地域の憩いの場として、また、観光面での活用も含め、関係機関との積極的な協議や働きかけが求められます。

#### ◆行財政運営・町民参画

- 今後も厳しさが見込まれる財政状況において、複雑・多様化する地域課題や町民ニーズに対応していくよう、効率的な行財政運営を図るとともに、町民との協働を進めながら、まちづくりに取り組んでいく必要があります。





## **第2編 基本構想**

## 第1章 まちの将来像

私たちの森町は、静岡県西部地区、遠州のほぼ中央部、日本のほぼ中心に位置し、豊かな森林と清流を有する美しい自然環境、恵まれた食、脈々と受け継がれてきた伝統文化を背景に、古都・京都を模した美しいまちづくりなどから、「遠州の小京都」を標榜してきました。

さらには、国土軸である新東名高速道路の開通により、広域交通拠点となるインターチェンジや掛川と結ばれる天竜浜名湖鉄道沿線の5駅を町内に有する、交通の要衝として、利便性の高い環境が備えられてきています。

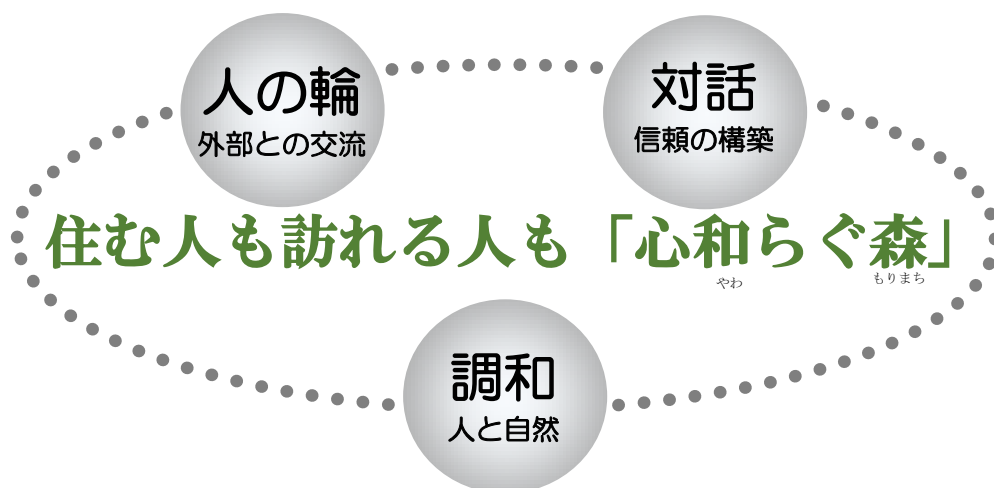
また、この10年間のまちづくりとして、平成18年度に策定された第8次森町総合計画では、「ええら森町！～みんながチカラの郷づくり 古きをいかして新しきを創る～」を将来像に掲げ、将来像の実現に向けた5つの目指すべき方針に基づき、各施策・事業の推進を図ってきたところです。

この第8次総合計画の策定から10年が経過する中、人口減少・少子高齢化の進行、社会経済のグローバル化、東日本大震災を契機とした防災やエネルギー問題への意識の高まり、ライフスタイルや価値観の変化による町民ニーズの多様化など、まちを取り巻く環境も変化してきています。

このような状況の中、町民一人ひとりの豊かな暮らしの実現と、多様な交流を育み、誰もが明るい未来を描くことができる環境を整えていくため、まちの「強み」を伸ばしながら、「選択と集中」により、これからの時代にあったまちの姿を創造し、未来への目標を町民と行政が共有して、着実にその歩みを進めていくことが求められます。

また、全国的な人口減少が課題となっている今、自治体（森町）も選択される対象のひとつと考える必要があります。多くの人に「行ってみたい」、「住みたい」と選んでもらえるようなまちにしていける必要があります。

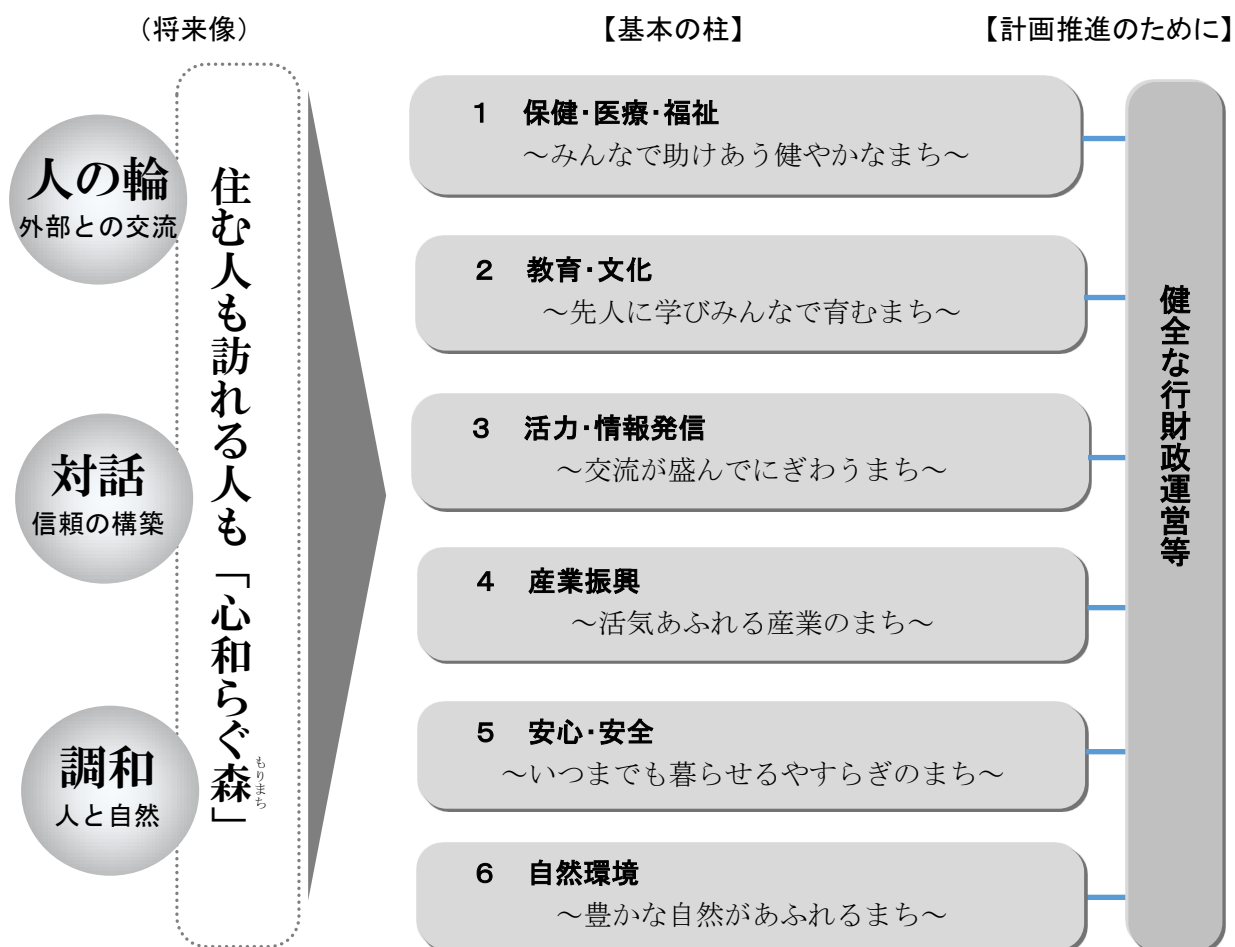
そこで、まちの活力維持のための外部との交流を促す「人の輪」、様々な立場、地域との信頼を構築していくための「対話」、豊かな自然と活力を創出するまちづくりを促す「調和」の3つの視点にたち、ここに、森町が目指す将来像として「住む人も訪れる人も 心和らぐ森（もりまち）」を掲げ、魅力あるまちづくりを進めていきます。



## 第2章 まちづくりの基本目標

まちの将来像の実現に向けて、各分野で取り組むまちづくりの基本的な方向性を示すため、下図の体系のとおり、分野ごとのまちづくり方針となる基本の柱と、各柱ごとの取り組みの実現のために必要な事項を定めます。

### ■まちづくりの基本目標設定概念図



## 基本の柱 1 保健・医療・福祉

～みんなで助けあう健やかなまち～

- ・年代や障がいの有無にとらわれることなく、すべての町民が、地域の支えあいやふれあいなどを通して、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会環境を整えます。
- ・森町で子どもが生まれ、そして健やかに育ち、森町に住み続けられるようにします。

(施策の基本方向)

- いつまでも「いきいき」過ごせるまちをつくる
- 「お達者」で暮らせるまちをつくる
- 子育て・子育てしやすいまちをつくる

## 基本の柱 2 教育・文化

～先人に学び、みんなで育むまち～

- ・地域固有の資源や文化の価値や魅力を再認識し、町民相互の共有により、まちや地域への誇りや愛着を高めるとともに、行政・町民一体となって「ひと」を育んでいきます。

(施策の基本方向)

- 「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる
- 歴史に学び多様な文化を継ぐまちをつくる

## 基本の柱 3 活力・情報発信

～交流が盛んでにぎわうまち～

- ・森町の潜在的な資源・魅力を見直し、積極的に発信するとともに、人々の交流を活性化します。

(施策の基本方向)

- 「森町らしさ」がいきるまちをつくる
- 町の魅力や情報を広く効果的に発信するまちをつくる
- 地域の宝・資源を最大限にいかしたまちをつくる

## 基本の柱 4 産業振興

～活気あふれる産業のまち～

- ・特産物の生産や多様な雇用を生み出す基幹産業の振興、活性化を促進します。

(施策の基本方向)

- 活力が持続できるまちをつくる
- 地域資源を活用した産業を育成・支援するまちをつくる

## 基本の柱 5 安心・安全

～いつまでも暮らせるやすらぎのまち～

- ・自然災害への備えや、日常生活を脅かす事故や犯罪などの防止に努めます。
- ・地域の美化や安心・安全の確保について、行政とともに、地域の住民相互の支え合あいで築くよう促進します。

(施策の基本方向)

- 安全・快適に暮らせるまちをつくる
- 災害に強い、地域防災力の高いまちをつくる
- コミュニティ豊かな地域活動が活発なまちをつくる

## 基本の柱 6 自然環境

～豊かな自然があふれるまち～

- ・まち（市街地）と緑のバランスを保ち、うるおいある豊かな生活環境を整えます。

(施策の基本方向)

- 緑豊かな自然あふれるまちをつくる
- 自然環境と共存するまちをつくる

## 計画推進のために 健全な行財政運営

- ・中長期を見据えた財政運営の見直しとともに、行財政改革の継続的な推進、公共施設等の適正な維持管理や再編も視野に入れた、健全な行財政運営を進めます。

### 3 人口・世帯の現状と将来見通し

#### (1) 人口

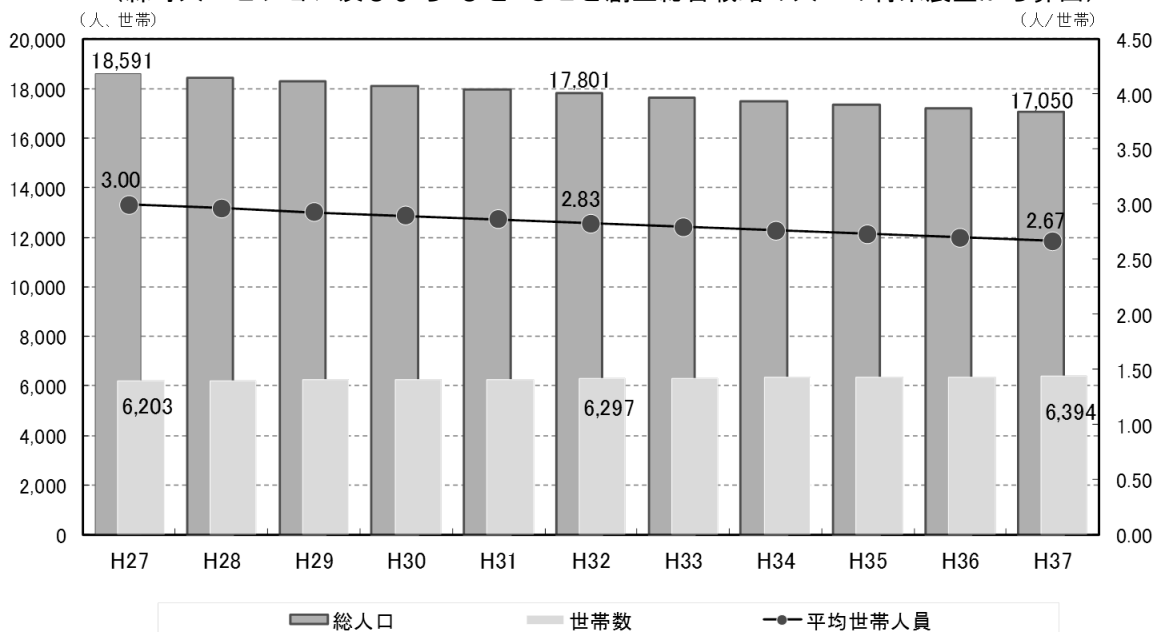
第9次総合計画における将来指標として、基本となる人口・世帯数については、森町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月）に示す人口の将来展望（2060（平成72）年：13,000人確保）を前提とするものとし、総合計画の目標年次である2025（平成37）年時点の値を目標人口として位置付けます。

また、当該値をもとに、世帯数、年齢別人口についても算出すると、以下のとおりとなります。

**目標年次 平成37年：人口17,000人**

#### ◆人口・世帯数の見込

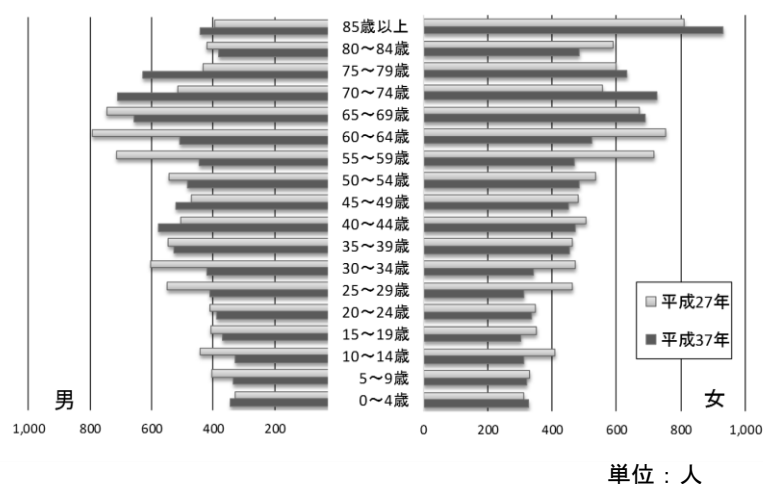
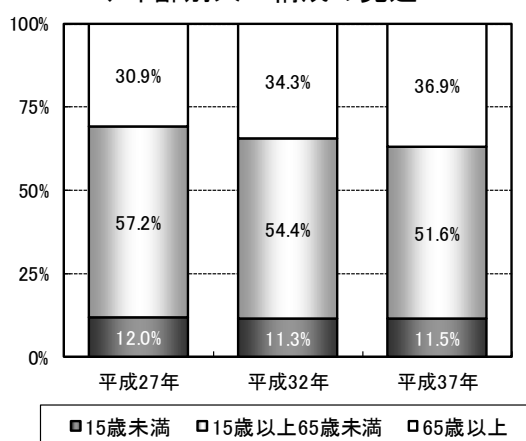
（森町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の人口の将来展望から算出）



## (2) 年齢別人口

将来推計人口を基にして、年齢3区分別人口をみると、平成37年の15歳未満人口は1,966人、15～64歳人口は8,800人、65歳以上人口は6,284人となり、更なる少子高齢化の進行が予想されます。また、15～64歳の生産年齢人口の割合が大きく減少することとも予想されます。

### ◆年齢別人口構成の見込



## (3) 就業人口

将来人口見込みに応じた就業人口については、平成37年で約6,500人(6,465人)と見込まれます。

### ◆将来就業人口の推計

※就業率（就業人口／15歳以上の町人口）

